

「つながる会員、つながる大学」への行動を

会 長 芦 川 弘

本年度の友松会総会が、風光明媚な湘南の地・茅ヶ崎で開催されますことは、誠に喜ばしいことでもあります。ここまで準備をされた湘南地区の皆様方のご努力に深く感謝申し上げます。

本日は横浜国立大学学長長谷部勇一様をはじめ、教育学部副学部長加藤圭司様、茅ヶ崎市教育委員会教育長神原 聡様、YNU 校友会会長杉田 亮様、富丘会理事長宮田芳文様、名教自然会会長井上誠一様など多数のご来賓の方々のご臨席をいただき、本会が盛大に開催されますことを心よりお礼申し上げます。

ここ数年、友松会を取り巻く環境は大きく変わってきています。

平成26年度に大学を主体に「大学及び学生が実践的学術の国際拠点を目指し、さらに大学の独自性や存在意義などを発揮できるようになる。」ことを目的に、YNU 校友会が発足しました。それと同時期に友松会も「学生に大学在学時から横浜国大生であるという意識を持たせ、かつ、育て、それを同窓会に引き継いでいく。」ことをねらいにして、新1年生を対象に学生会員の会員募集を行ってきました。本年で3年目を迎えますが、友松会としては、学生の学部全体支援、就職支援、特別講座開設の支援などを積極的に行ってきました。さらに、学生支援の一環としてこの3月、初めての試みとして、卒業式後「卒業生を送る会」を開催しました。150人を超える卒業生、大学の先生の出席を得、盛大に開催することができました。

また、今年度、学部改編が行われ、学部が教育人間科学部から教育学部に変わりました。これによって、学部の使命は教員養成を主目的になります。友松会としても、転換期を迎えた大学とともに新たな環境のもと、新たな展開の必要性を認識しなければなりません。

さて、友松会は明治21年、神奈川師範学校同窓会として発足し、幾多の変遷を経て、来年度130年の節目を迎えます。その間、5万人にも及ぶ卒業生を輩出し、そのほとんどは教育界に進み、教師として県下はもとより全国各地で活躍してまいりました。

友松会の目的は会則に「会員相互の親睦と向上を図り、母校の発展に貢献するとともに、教育振興など文化の向上に寄与する」ことであると理念として謳っております。私たち友松会はこれらの状況を十分理解をした上、長い間に培われた友松会としてのよさを大切にしながら、学部の新入生や卒業生を温かく迎え入れて、望ましい活動を展開していかなければならないと思います。

そこで、私たちはその理念実現のため、基本姿勢として、今年度も「深まろう 高まろう つながる会員 つながる大学」をスローガンに掲げました。本年度はその具体的行動として会員同士の連携、大学との連携をねらいに「さらに行動する友松会」を目標に掲げました。

「会員同士が友松会の仲間としてつながり、高い意識をもつ」ためには、まず「支部活動の活性化を図る」ことです。そのためには、支部の会員同士が、常に一体感を持つことが必要

です。校友会が大学を支え、友松会が学生を支援し、やがて卒業して支部会員加入する時に、温かく迎え入れるためには存在感のある充実した支部を継続発展させておくことが何よりも大切なことです。現在、大部分の支部では、大勢の会員が参加し、会員同士年齢差も超えて和気あいあい、歓談に興じ、交友を深めていました。未だ開催未実施の支部がありますが、今後学生会員が卒業して、支部へ会員として所属するようになった時、受け入れ態勢を作っておくためにも、早急に支部長を中心にOB会員の助力で開催を実現していただきたいと思ひます。支部の集会によって同窓生が一堂に会し、交流することは会員相互の絆を深める絶好の機会です。この実施こそが基盤強化に繋がるものだと思います。

また、ここ数十年來、教職以外に進む卒業生が増えています。友松会は学部同窓会であることを踏まえ、同期会組織を強化・充実させて名実ともに学部の卒業生を取り込む同窓会にしていきたいと思ひます

次に「会費納入会員の増強に取り組む」ことです。

ここ数年会費納入会員は減少傾向を示しています。会費がすべてではありませんが、友松会の活動が安定し、組織基盤の強化にとって会費納入会員増強はその要です。今までの名簿の整理や見直しを昨年以上に綿密に行い、会費納入を促す働きかけが必要です。

さらに、「大学との連携を強化する」です。

新入生は入会に積極的です。友松会としては、その意思に応じて、学生会員のために学生へ就職支援、各種講座開催への支援、演習の企画などが支援できるように努力していきたいと思ひます。今後、「横国 day」などの事業にも学生、同窓会、大学との共催となり、今までよりもスケールの大きいイベントに代わることも考えられます。そのためにも、大学との連携を今以上に強化・充実・発展していかなければなりません。会員の皆様の支援を大いに期待しています。

今年度は、本日の総会を初めに、来る10月14日(土)には今年度、第1回「横国 day」が常盤台キャンパスを会場に開催されます。これは、今までのホームカミングデーに代わるイベントを大学主催で、午後から開催されますが、午前には友松会では従来のように「豊かな教育を考える会」(第24回)を開催し、松沢研究奨励賞受賞者の研究発表・研究協議を予定しております。参加者の皆さんと真摯に教育について語り合うことも意義あることではないかと思ひます。さらに当日は各同窓会、大学ともに盛り沢山の講演、パネル展示、キャンパス探訪なども計画しています。また、例年のように、参加者が一堂に会しての交流会を予定しています。同期、サークル、ゼミ仲間と旧交を温めるいい機会となるかと思ひます。ぜひ大勢のご参加を期待しております。

なお、本日は松沢研究奨励賞の受賞者のお二人とともに、卒寿を迎えられた方々のご出席をいただいております。長い間、友松会会員としてご尽力いただきありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが友松会員の皆様方のご健康とご多幸を祈念し、本日もご出席の方々に感謝申し上げます、挨拶といたします。